

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970500076		
法人名	社会福祉法人 長生会		
事業所名	桃 寿 園		
所在地	奈良県橿原市北越智町345		
自己評価作成日	令和 4年 10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2970500076-00&ServiceCd=320&Ivpe=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階		
訪問調査日	令和4年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、「ゆっくり」「いっしょに」「たのしく」を理念に利用者様の尊厳を重んじながら、認知症予防に観点を置き自立を支援するように働きかけを行っています。利用者様同士の関係性についても、孤立しないようにレクリエーションの機会などを通して交流がもてるように配慮しています。食事に関しては、四季折々の食材を選び、献立が同じようなものにならないように配慮しています。また月に何度かは利用者様に献立をお聞きし、時には利用者様に調理に参加して頂いています。敬老の日などは、お寿司を提供したり、お正月にはおせち料理を提供し、お祝いをしています。現在は新型コロナウイルスの感染予防の観点から中断していますが、それ以前では地域行事にも積極的に参加し、地域住民・ボランティアの方々と交流を図っています。また、併設している特別養護老人ホームとの連携を密にし、様々な行事への参加や医療面のフォローを可能にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ゆっくり」「いっしょに」「楽しく」は創設者が作った理念で、利用者一人一人が自分のペースで、急がず焦らず、「できること」は自身で、「できないこと」はスタッフを含めておたがい助け合い、日常の中で苦楽を共感しながら社会的、健康的に生きていく支援を心掛けている。コロナ禍の中で運営推進会議の在り方や利用者家族、そして地域との繋がりを改めて模索し、途切れかけている地域との連携を取り戻そうと努力している。そして母体である特別養護老人ホームとも連携して、この地域のニーズ応えようと頑張っているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所は、「ゆっくり」「いっしょに」「たのしく」を理念とし、ご自身のペースで自宅で生活しているような環境づくりを意識しながら職員各々が実践しています。	事業所の理念をパンフレットに記載するとともに、職員で共有して、利用者の個別支援に力を入れている。利用者の生活リズムを把握し、ゆったりとした生活ができるよう支援している。季節の作品と一緒に作ったり、同じものを食したりと「みんなで一緒に」「たのしく」を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の幼稚園・小学校・高校の運動会や文化祭に参加しています。また、地域の道の駅などに買い物に出かけたりしています。※今年に関しては、コロナウイルス感染予防の観点から中止しています。	コロナ禍で感染予防のため、自治会や地域の学校との交流が途絶えている。ラインアプリやツールを使って地域との繋がりを回復しようと頑張っている。地域のクリーンキャンペーンには参加している。また、地域のお店に買い物に出かけることがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の居宅事業所がランチ事業として、月に1度の介護教室などを開催しており、その際に当事業所の事例などを参考にされています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議でグループホームの実践などを紹介し、構成員の皆様とよりよい施設づくりについて話し合っています。※今年に関しては、コロナウイルス感染予防の観点から書面での開催を実施しております。	運営推進会議は、現在コロナ禍のため、2か月に1回メンバーに利用者の概要や活動状況、行事予定などの内容の書面を送付するかたちで開催している。	コロナ禍に入ってメンバーが顔を合わせての運営推進会議が長らく開催できていないので、オンラインも併用しながらの会議が開催できれば良いと思われる。書面開催でも、メンバーの意見を聴取する取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の相談派遣事業を受け入れており、毎月訪問して頂き、その都度貴重な意見を聞き、サービス向上に努めております。※今年に関しては、コロナウイルス感染予防の観点から中断しております。	市との連絡は、主に同じ建物内にある法人事務所が窓口になることが多いが、直接市の担当課に電話することがある。コロナ禍前は、市の相談員も月2回訪問していたが、現在は中止になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会に参加し、事例検討し拘束の理解を深め支援しています。また、職員間で身体拘束をしないようなケアのあり方について相談を行いながら支援をしています。	契約書に身体拘束をしないケアに取り組むことが記載されている。身体拘束委員会を法人全体で3ヶ月に1度開催し、研修すると共に、ホーム内でも身体拘束をしないケアについて具体的に検討し、共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や、園内勉強会を実施し、虐待防止に努めています。また、『虐待防止宣言』を掲げ、「虐待ゼロ」を目指して取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に後見制度を利用されていた利用者様から学ぶことができ、今後も理解を深める為、併設のランチ事業にも協力して頂きながら学んでいきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な時間をかけ丁寧に説明し、納得・理解して頂くよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族様の面会時に意見などを頂戴し、また市の相談員による外部からの意見を踏まえ運営に反映するように努めています。コロナ禍になってからは定期的に家族様に運営状況をお伝えし、意見や要望について確認するように努めています。	家族の要望も踏まえ現在、週2回、透明アクリル板越しに面会できるよう支援している。また、ラインアプリなどを使って、オンラインでも面会することができる。家族の要望は、面会時や電話で伺っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時や随時職員と話す機会を設け、提案などを聞き運営に反映しています。また、個別に面談時間を設け業務上の悩みなどを共有し解消するように努めています。	職員の意見や要望は、日ごろの活動の中や会議の中で聴いている。また、3か月に1回、管理者が職員の個人面談を行って、個人的な悩みや思いを聴いている。職員からは休憩時間について、一人の時間を持てるようにしてほしいという要望が挙がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間や日程の意見を毎月聞き、勤務表などに反映しています。また、職員同士の関係も円滑にいくように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園内勉強会を実施し、参加を促しスキルアップの環境整備に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などに参加し、ネットワーク作りに努め、情報交換などを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に細かくご利用者の生活状況を確認したり、実際に居住スペースを拝見したりしながらサービスに反映できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の不安や、今までに苦労されたことを親身に聞き、同じ思いに立って情報を共有することにより良好な関係を築き、家族様が安心してサービスを利用して頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをしっかりと、その中から必要なケアや望まれるニーズを見極めケアプランに反映されるよう、また利用者様や家族様にも納得いただくサービスを提供できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の細かな変化を見逃さず、利用者様が訴える前に気付けるよう日ごろから観察し、コミュニケーションをとり、安心して生活できるように支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に家族様に電話で利用者様の状態報告をさせて頂いたり、オンライン面会の機会を作らせて頂いています。 また病院受診などの際には家族様にも一緒に外出して頂き協力を得ながら支援を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会などを積極的に受け入れ、友人の方にも面会して頂くよう家族様にも促しています。※今年に関しては、コロナウイルス感染予防の観点から中止しております。	制限はあるができるだけ家族の面会ができるよう支援している。コロナ禍で以前のような外出ができない状況なので、利用者が住んでいた場所が映っているTV番組や懐かしい映像をネットの動画で見て、馴染みの場との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように席順を配慮をしたり、会話がスムーズにいくように職員が間に入ったりと、それぞれの間関係を把握し対応しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も継続して相談支援を行い、気軽に相談できるよう常に窓口を開いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のコミュニケーションの中で、一人ひとりの思いをくみ取り、う要望などがあれば買い物や行事などに反映しています。また、日ごろの支援には、家族様に連絡しカンファレンスを行い、最善の方法を検討しています。	利用者の生きてきた歩みを大切に、入居前に自宅を訪問し、住環境や生活状況を調べ、アセスメントに活かしている。また、日々生活では、買いたい物や食べたい物などを聴いて対応できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを基本に、希望に沿った支援を実施するために、家族様や利用者様から情報を得ています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を観察・記録し、少しの変化にも敏感に感じ安心・安全に生活して頂くよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状況に応じて、カンファレンスを開き、よりよいケアができるよう職員同士で話し合い、チームケアが出来るよう情報交換を行い、介護計画の作成を行っています。	利用者の状態に大きな変化があるときは、その都度家族と連絡を取って介護計画の見直しを行っている。変化がなければ基本的に年1回計画を更新しており、家族に介護計画を送って、署名捺印を頂いている。	家族アンケートで、介護計画の説明を受けていないという方がおられる。状態変化のあるなしに関わらず、全ての利用者や家族に定期的なカンファレンスを行い、介護計画に活かす取り組みが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・業務日誌・申し送りノートを通じ、職員間で情報の共有を図り、口頭での伝達や意見交換を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズに対し、他事業者や、地域の協力を得て連携し対応するよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源をさらに発掘できるよう、地域の方達にも意見を聞き、活用できるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当園を利用される前より、利用されていたかかりつけ医を第一優先とし、家族様・利用者様にも了解を得て連携を図っています。	週1回、内科医が訪問診療している。歯科医も週1回の訪問している。他の医科へは、基本的に家族が付き添って受診している。法人の看護師が週4回訪問し、利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化や健康状態をかかりつけ医・看護職に報告し、適切な医療支援が出来るよう連携を図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者（地域連携室）と緻密に連携を図り、良好な関係性を築くよう日頃から、医療の相談などを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は看取りの対応はしていません。家族様を中心に入所後より重症化した場合や望まれる終末期の在り方について相談をしています。また、職員間でも園内勉強会や意見交換を通じて看取りケアについて学ぶよう努めています。	重度化した際には併設の特別養護老人ホームや病院へ行くことが多く、現在のところ看取りの事例はない。今後、看取りを希望する方が出てきた時のために、年に1回ターミナルケアの勉強会を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、目の届く所に設置し意識付けを行っており職員全体に対応が行き渡っています。また、新しく入ってきた職員には、必ず指導しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施しています。また消防や行政の指導に従い、防災に努めています。	法人で2回、ホームで2回の計4回避難訓練を実施しており、誘導訓練に関しては利用者も参加している。事業所は、地域の避難所にもなっており、水や非常食等を備蓄している。また、停電時に備え、発電機も用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を大切にし、一人の人格者として接し、また言葉かけには十分配慮して安心して頂けるよう対応を心掛けています。	利用者の生活歴を把握し、個別支援を大切にしている。トイレや入浴時は、外から見えないようにするとともに、バスタオルなどを適切に使うことで羞恥心にも配慮している。同性介助を希望する方には、必ず対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意見や希望を常に日ごろから会話の中などから汲み取り、尊重するよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やレクリエーション時等に、したい事や食事なら食べたい物を聞いたり、状態に応じて本人のペースに合わせ臨機応変にスケジュールを変更したりしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所時や面会時、自宅で生活をしていた時に使用していた物や服などを持ち込んで頂き、利用者様や家族様にも相談しながら着衣を選んで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの好き嫌いを把握し、食べれない物に関して個別で対応しています。また食事の準備や片付けを共に行い、一緒に食卓を囲んでいます。	食事は、利用者の要望も聞きながら献立を考え、全て手作りしている。地域の方からお米や野菜を頂くこともある。職員も利用者と同じものを食べている。お誕生日にはお寿司を用意したり、スポンジケーキを買ってきて手作りケーキをつくって祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・飲水量を観察し、不足している方は記録を継続して行い、必要量の摂取を支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時及び毎食後それぞれの状態に応じて、ケアを行っています。希望される方には、週1度歯科往診による口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時の内容を記録し、その後排泄パターンや習慣の検証を行い、その時その時の個別の状態にあった対応を柔軟に行い、自立できるよう支援しています。	利用者個々のADLや残存機能、排泄パターンなどを把握し、なるべくトイレに座って自然な排泄ができるよう支援し、おむつを使用せず、利用者が快適に過ごせるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく下剤薬などに頼ることのないように食物繊維などの栄養素をバランスよく摂取できるよう食事内容を考案させて頂いたり、水分補給や適度の運動、個々に応じた予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の回数は決めています、本人の希望に沿って時間や日にちを設定しています。	週3回、入浴できるよう支援している。入浴剤を何種類か用意し、利用者を選んでもらって、色や香りを楽しめるようにしている。湯船に入れない利用者に対しては併設の特別養護老人ホームの機械浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に就寝時間の違いを尊重し、本人のペースに合わせ就寝して頂き、安眠できるよう環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋を理解し、薬の変更や追加の際には、その都度用法・副作用について職員間で申し送っています。また、服薬内容に変更があった場合は、家族様にお伝えするようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態に合わせたレクリエーションや趣味を生かした行事等を考案し実施しています。また、利用者様に花の水やりや、食事準備などの役割当番をして頂き、自立に向けた取り組みを実施して頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	園外散歩などの行事の際には、家族様などにも協力を得て外出支援を行っています。また、併設の特養の方たちと共にドライブに出かけたりしています。※今年に関しては、コロナウイルス感染予防の観点から外出は自粛しております。	少人数でドライブに出かけたり、利用者と一緒に近くのお店へ買い物に出かけている。また、敷地内やベランダで外気を浴びるなどして、このコロナ禍の中、利用者のストレスを少しでも無くせるよう努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所にて金銭管理をしていることを伝え、嗜好品などの希望のものを定期的を確認し、買い物同行または買い物代行を通して購入できるよう支援しています。※今年に関しては、新型コロナウイルス感染予防の観点から買い物同行は中止しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、いつでも電話をかけて頂いたり、ラインアプリを通してビデオ通話でのオンライン面会を実施しています。また手紙のやり取りができるように職員より支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の装飾を飾ったり、所々に造花を飾るなどして清潔感のある環境を作るように取り組んでいます。また、不快を感じないよう利用者様に聞き取りをしたりと、配慮しています。食事の際には、外が眺められるようカーテンを開け配慮しています。	リビングのテーブルと少し離れた所にテレビとソファを置き、利用者がそれぞれの場所でゆったりと寛げるよう工夫している。壁には職員と利用者の季節感あふれる共同作品が飾られている。窓からは、古墳の森や田畑を眺めることができる。ベランダがあって、気軽に外気浴することもできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士でも、気の合う方への席の配慮や各々の居室で会話ができるよう職員が付き添い支援しています。また、利用者同氏が落ち着いて語らえるようソファを設置するなどの配慮をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前の面接時に、本人の在宅時に近い居室環境ができるように利用者様・家族様と相談しながら居室作りを工夫しています。また、入居後も利用者様・家族様の思いを汲み、模様替えができるように対応しています。	入居前に利用者の自宅を訪問し、生活環境などを把握して居室づくりに活かしている。居室に利用者が使いやすいテーブルや椅子、筆筒などを持ち込み、好きな写真安堵を飾って、その人らしく居心地よく暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂・トイレ居室の場所を理解できるように案内板を飾ったりし、自立した生活が送れるように工夫しています。		